

『地域を守る消防団』

西条市立東予東中学校 3年 平木 亮子

平成二十七年三月六日金曜日。午後十一時頃、母の大きな声が聞こえました。

「起きて！早く起きて！亮ちゃん、早く起きて！」

ぐっすり眠っていた私は、いつもと違う母の声で飛び起きました。父も、

「早く起きて外にこい！隣の倉庫から、煙がでよる！」

と、焦っていました。急いで外に出てみると、倉庫の窓から、黒い煙がでていました。出入口のドアから赤い炎が見えました。そして、警報機が鳴りひびいていました。私は、初めて見る光景に、恐怖でいっぱいでした。倉庫の中で何かが割れる音が聞こえました。倉庫の奥には、プロパンガスが何本も入っています。それが爆発すれば、家にまで被害にあうので、とても心配でした。

父が、消防署に通報して数分後に消防車が来ました。その後、消防団の人たちの車が何台も来ました。私は、消火活動を始めました。消防士の方はもちろん、消防団の方もてきぱきと動いていました。消防団の中には地域の知っているおじさんがたくさんいました。こんな夜遅くに、たくさん消防団の人が来てくれたことに、私は、ビックリしました。

西条市の消防団は、約一六〇〇人所属していました。こんなにも、所属しているとは思っていませんでした。その中の約二十人は、女性でした。消防団の仕事は、災害時や火災が起こったときに、消防士と協力して人を助けたり、災害時に状況に備えて訓練をしたりすることです。防災の広報活動なども行っているそうです。消防団の人たちは、日頃は自分の仕事についています。今回のように、火事が発生したときはすぐにかけつけてくれることを初めて知りました。

今回は、通報が早かったのでドア付近の火事だけですみました。消防士の人たちがすぐに火を消してくれました。私は、もう火が消えて安心したのでねむりにつきました。朝起きたときに、父から寝た後のことについて話を聞きました。消防士の方が帰ったあと、消防団の人が何人か残っていたそうです。その残った消防団の方たちは、火が再度つかないように、明け方の三時まで見守ってくれていたそうです。この火事で、献身的な活動をする消防団のみなさんの姿を始めてみました。地域の安全を守る、頼りになる消防団のみなさんのおかげで私たちは安心して暮らせることに感謝しています。私も、地域の一員として火事や災害に備えて、地域に貢献できる人になりたいです。